

○ 令和6年度中央卸売市場事業会計予算案

1 市場事業会計の現状及び予算編成について

札幌市中央卸売市場における取扱額は、少子高齢化や消費者ニーズの多様化、市場外流通の増加に伴う取扱量が減少している一方、水産、青果ともに円安や生産コストの上昇等により、総体的に単価高となった影響を受け、昨年度は1,540億円程度となっています。

令和6年度は、令和5年度に引き続き、市場事業会計の収支は黒字となる見込みであるものの、物価高騰の影響による営業費用の増加や、施設使用料の減少が見込まれており、厳しい財政状況が続くことが予想されます。

また、経年劣化が進む立体駐車場や水産棟の設備更新工事により、令和9年度以降、減価償却費の増加が見込まれるため、財務面での持続性の確保は不可欠となっています。

食品流通における情勢の変化に的確に対応し、札幌市中央卸売市場が今後も「持続可能な強い市場」であるための計画として、令和3年度から令和12年度の10年間を計画期間とした「第2次札幌市中央卸売市場経営活性化プロジェクト」を令和3年3月に策定し、令和6年度は、計画期間の4年目となります。

令和6年度予算は、本プロジェクトで掲げた収支均衡を維持する予算編成を行っています。

2 令和6年度市場事業会計予算案の概要

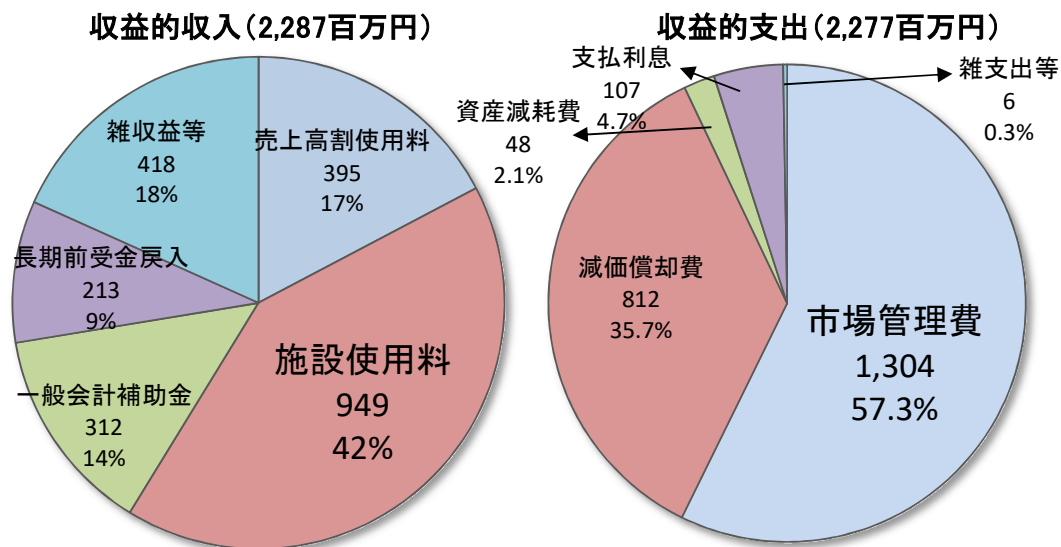
令和6年度市場事業会計予算案の主なポイントは、次のとおりです。

(1) 市場整備

水産棟冷凍機設備などの施設に係る更新を行います。

(2) 収益的収入及び支出の状況

令和6年度予算案における収益的収入及び支出の状況は、下の円グラフのとおりですが、物価高騰の影響を受け、市場管理費における光熱水費や委託料が増加したほか、減価償却費の増などにより、令和5年度予算と比べて黒字幅は151百万円縮小しています。



注：円グラフの金額には、消費税及び地方消費税を含んでおります。（単位：百万円）